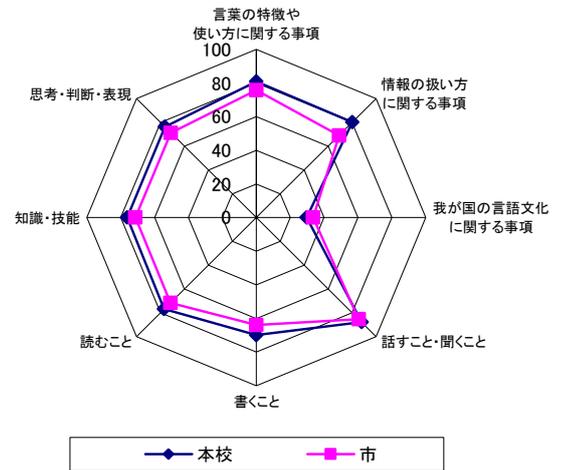


宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.9	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	80.2	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	29.8	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	87.9	85.5	86.5
	書くこと	69.8	63.9	65.8
	読むこと	77.0	71.6	69.5
	観点別	知識・技能	76.2	71.3
思考・判断・表現		76.3	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

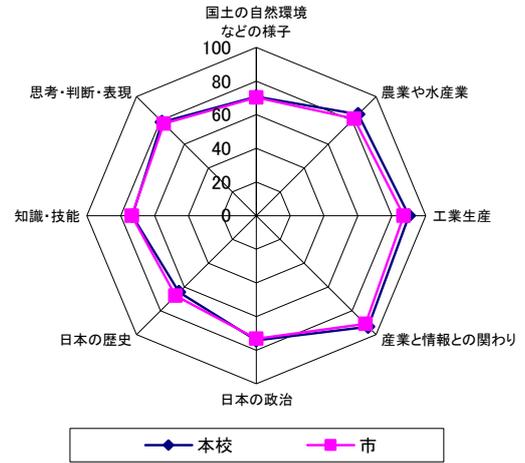
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市平均を上回った。 ○漢字の書き問題は、すべての設問で市の正答率を上回った。 ●漢字を読む問題は、市の正答率をやや下回った。 ●文と文の接続の関係を問う問題では、市の正答率を上回ったが、正答率が59.5ポイントと低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字だけでなく語彙力を高めるために、言葉の意味調べや熟語を使った短文作りに取り組むようにする。 ・接続語の前後の内容を理解して文章が書けるよう、指導する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市平均を大きく上回った。 ○原因と結果など情報と情報との関係について問う問題では、市の正答率を11.1ポイント上回った。	・国語の授業だけでなく、他教科の調べ学習の際にも、意識的に、情報を整理して要約したり、必要な情報を抜き取ったりする活動を取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市平均を下回った。 ●和語・漢語・外来語について理解する問題では、市の正答率を3.7ポイント下回った。	・引き続き、和語や漢語の定義をしっかりと理解できるように復習し、語句の由来に関心をもてるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均を上回った。 ○●意図に応じて話の内容を捉える問題では、市の正答率を3.8ポイント上回ったが、正答率は73.6ポイントと高いとは言えない。	・インタビューや相手の話を聞く際には、自分が聞こうとする意図を明確にし、相手の話のどこが大切かを意識しながらメモを取るなどの工夫ができるようにしていく。
書くこと	平均正答率は、市平均を上回った。 ○意見と理由を明確にして、指定された条件に沿って文章を書く問題では、市の正答率を9.5ポイント上回った。 ●目的に応じて文章を簡単にまとめて書く問題では、市の正答率とほぼ同じだったが、正答率は47.1ポイントと低かった。	・伝えたいことを効果的に伝えるために、自分の意見を述べるだけでなく、目的に応じて必要な事柄を選ぶなどの工夫ができるよう、話し合いや意見文を書く機会を増やしていく。
読むこと	平均正答率は、市平均を上回った。 ○説明文の内容を読み取る問題は、市平均をすべて上回った。 ●物語の、登場人物の様子について描写を基にとらえる問題では、正答率は5.1ポイント下回った。	・家庭学習で音読の機会を増やし、文章に慣れるようにする。 ・物語においては、描写を基に場面の様子をイメージする時間を設け、様子や心情を読み取れるようにする。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.7	70.3	66.4
	農業や水産業	85.1	81.6	75.3
	工業生産	90.1	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	93.4	91.0	81.3
	日本の政治	74.2	73.2	75.3
	日本の歴史	64.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	73.2	73.5	72.5
	思考・判断・表現	78.6	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

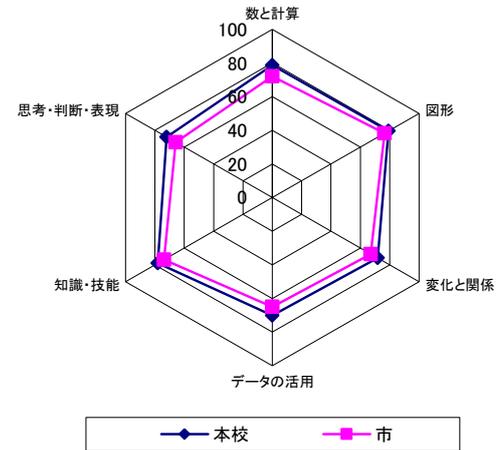
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市平均よりやや低かった。 ○特に、季節風について問う問題は、市の正答率を1.8ポイント上回った。 ●日本の周辺の海洋名について問う問題は、市の正答率を3.7ポイント下回った。	・引き続き自主学習や授業等で地図帳やタブレットを活用して、日本周辺の海洋や地形などを確認させる機会を多くもたせる。
農業や水産業	平均正答率は、市平均を上回った。 ○米の品種改良についての資料を読み取る問題は、市の正答率を7.3ポイント上回った。	・引き続き農業や水産業に対して関心をもてるよう指導を行い、理解を深める。
工業生産	平均正答率は、市平均を上回った。 ○日本の貿易の変化について資料をもとに読み取る問題は、市の正答率を6.1ポイント上回った。	・引き続き工業生産に対して関心をもてるよう指導を行い、理解を深める。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市平均を上回った。 ○全ての問題において、市の正答率を上回った。特に、情報の発信と受信の注意点を考える問題では、市の正答率を2.7ポイント上回った。	・今後も引き続き、社会科の授業以外でも、個人用パソコンを利用する機会を設定し、インターネットの正しい活用方法などを確認するなど、情報教育を進める。
日本の政治	平均正答率は、市平均を上回った。 ○日本国憲法について問う問題は、市の正答率を3.1ポイント上回った。 ●法律ができるまでの流れを問う問題では、市の正答率を1.5ポイント下回った。	・国の政治の仕組みについて、ニュース報道や新聞記事など生活に関連するものと結び付けて考えさせ、子どもたちの身近に感じられるような指導を行う。また、授業内でも資料を適切に読み取ることができるよう指導していく。
日本の歴史	平均正答率は、市平均を下回った。 ○かな文字について問う問題は、市の正答率を6.8ポイント上回った。 ●鎌倉幕府の政治の仕組みを問う問題は、市の正答率を11.1ポイント下回った。	・それぞれの時代に起きた出来事と、出来事の背景を結び付けて理解できるよう、継続して丁寧な指導を行う。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.7	72.1	74.6
	図形	79.2	76.5	76.1
	変化と関係	71.7	67.1	59.7
	データの活用	70.1	65.0	64.5
観点別	知識・技能	78.0	73.8	74.7
	思考・判断・表現	72.1	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

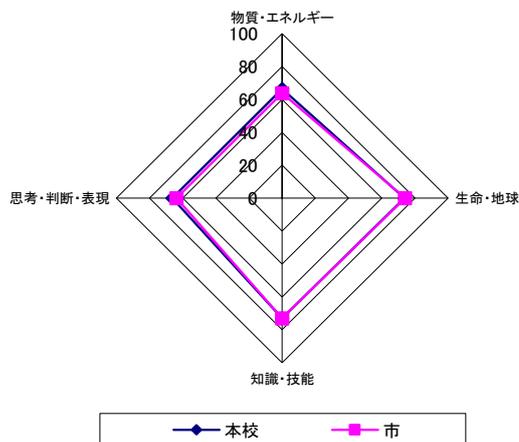
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を上回り、かつ全設問においても上回った。 ○分数のかけ算、わり算の約分がある問題は、市の正答率を11ポイント以上大幅に上回った。	・朝の学習やAIDリルで計算練習に継続して取り組むことによって、より確実な定着を図る。 ・発展的な問題を解決する力も身に付けていけるよう、習熟度別学習等を生かして個に応じた指導の充実を図る。
図形	平均正答率は、市平均を上回った。 ○半径が与えられた円の面積を求める問題は、市の正答率を9.4ポイント上回り、93.4ポイントと高かった。 ●平行四辺形の面積を求める式を選ぶ問題は、市の正答率を4.1下回った。 ●線対称な図形の対応する点を見つける問題は、市の正答率より2.3ポイント下回り、正答率も低く48.8ポイントだった。	・図形を構成する要素に着目し、実感を伴う操作活動を充実させることによって、図形の性質を多角的に捉える力を育む。 ・身の回りから線対称や点対称の図形を見つけたり、図形がもつ美しさを味わったりすることを通じて、豊かな図形感覚を養う。
変化と関係	平均正答率は、市平均を上回った。 ○単価が異なるセットを1つずつ買ったときのノート1冊あたりの値段を求める問題では、市の正答率を10.8ポイント大幅に上回った。 ●速さと時間から道のりを求める問題は、市の正答率を3ポイント下回った。	・単位量あたりの考え方を実生活の具体的な場面と関連づけて指導し、その考え方の有用性を実感できるようにする。 ・速さの学習では、数直線を活用し、速さが時間と道のりの2量の割合で表されていることを視覚的に捉えさせていく。数直線と式を丁寧に関連づけることで、公式の暗記に頼るのではなく、速さの本質的な理解につなげていく。
データの活用	平均正答率は、市平均を上回り、かつ全設問においても上回った。 ○ドットプロットから、最頻値を読み取る問題では、市の正答率を10ポイント大きく上回った。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する記述問題では、市の正答率を8.3ポイント上回ったが、正答率は43.8ポイントと低かった。	・統計的な見方・考え方を他教科や日常生活に広げ、データを多角的に分析する活動を通して、根拠を明確にして自ら判断できる力を高めていく。 ・友達同士で説明し合う活動を大切にし、対話を通して自分の考えを整理したり、深めたりする機会を増やす。これにより、自分なりの言葉で筋道を立てて表現する記述力の向上を図る。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.4	63.8	61.6
	生命・地球	73.7	74.1	73.3
観点別	知識・技能	73.0	73.0	71.3
	思考・判断・表現	66.3	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市平均を上回った。</p> <p>○ものの燃え方に関する問題はいずれも市の正答率を上回った。とくに、石灰水を白く濁らせる気体が二酸化炭素であることを問う問題では、市の正答率を5.9ポイント上回った。</p> <p>●うすい塩酸と炭酸水を見分ける実験の方法を記述する問題は、市の正答率を4.2ポイント下回った。</p>	<p>・水溶液を区別する方法について、いろいろな水溶液の学習をしたあとに、どのようにしたら、水溶液を特定できるかを話し合ったり確認したりする時間をとり、自分なりの言葉でまとめることができるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市平均を下回った。</p> <p>○植物のつくりとはたらきに関する問題では、いずれも市の正答率を上回った。とくに、ヨウ素デンプン反応について理解を問う問題では、市の平均を8.3ポイント上回った。</p> <p>●心臓と血液のはたらきを問う問題は、市の平均を6.5ポイント下回った。</p> <p>●川岸が削られたのが、流れる水による「浸食」のはたらきであることを問う問題は、市の正答率を大幅に下回った。</p>	<p>・心臓と血液のはたらきの学習では、動画などの視覚教材やICT機器を活用して視覚的にとらえることができるようにする。また、酸素や二酸化炭素、養分など、運ばれているものがどのように使われて(排出されて)いるかを考え、理解を深めるようにする。</p> <p>・実験中に、浸食の様子を確認できるようにして、「浸食」という作用について理解が深まるようにする。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
有効な話し合いを行い、考えを深めたり広げたりする工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で、話し合いの観点と話型の作成を行い、発達段階に応じて指導している。 ・考えの深まりや変化が見られるような振り返りを学校全体で作成し、実践している。 	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問で、6年生では、市の肯定割合をやや上回った。(0.9ポイント) 「自分の考えを、根拠を挙げながら話すことができる」の設問で、6年生では、市の肯定割合をやや上回った。(1.7ポイント)
教員それぞれの専門性を生かした教科担任制の取組。	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高学年を中心とした教科担任制の実施。 	「勉強がすきか」の設問で、6年生では、市の肯定割合を上回った。(2.6ポイント) 「学校の授業がどの程度分かるか」の設問で、6年生では、市の肯定割合を上回った。(3.2ポイント)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学力調査の結果では、ほとんどの教科で市の平均を上回る、あるいは、同程度の正答率となった。引き続き、各教科等の授業において、教科主任を中心として教材研究を深め、学力の向上を目指したい。学習に対する前向きな態度については、学年や教科によって、市の肯定割合を下回る結果となっている。専門性を生かしながらそれぞれの学習への興味関心を高め、学びを喜ぶ児童の育成を目指したい。

・対話を通して考えを深めたり広げたりする授業については、今年度の本校の研究課題と関わりのある内容であった。引き続き、効果的な場面で学習形態を工夫して意見を伝え合う中で、自分の意見をもったり、意見の内容を深めたりすることにつなげていきたい。また、効果的な話し合いの方法や振り返りの方について、学校全体で共有していきたい。